

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：15401
 研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2012～2014
 課題番号：24700624
 研究課題名(和文)「実践的指導力」を育成する学部・大学院一貫の体育教員養成カリキュラムの開発と実践

 研究課題名(英文) Development and Practice of Physical Education Teacher Training Curriculum of Undergraduate and Graduate Schools Consistently to Develop "Practical Teaching Skill"

 研究代表者
 岩田 昌太郎 (IWATA, SHOTARO)

 広島大学・教育学研究科(研究院)・准教授

 研究者番号：50433090

 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、教員養成における学部・大学院一貫を目指した体育教員養成カリキュラムの開発とその実践を検証することを目的とした。
 その結果、国外の先駆的な体育教員養成カリキュラムとそのアセスメント方法の知見を基に、学部・大学院一貫の体育教員養成カリキュラムの一部を開発することができた。課題として、継続的なアセスメントをもとにカリキュラムを再構築する必要性が残された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to verify the development and practice of physical education teacher training curriculum aimed at undergraduate and graduate consistency in pre-service education.
 As a result, based on the findings of physical education teacher training curriculum and its assessment method of foreign pioneer system, we were able to develop a part of the physical education teacher training curriculum of undergraduate and graduate consistency. To reconstruct the curriculum was discussed continuously as a future issue.

研究分野：体育科教育学

キーワード：体育教師教育 教員養成カリキュラム 学部・大学院の一貫 アセスメント 質保証

1. 研究開始当初の背景

近年のわが国の教育政策を概観すると、「教職課程の質保証」が焦点の課題として挙げられる。しかしながら、その質保証の方略としては各教員養成大学の独自性に委ねられており、カリキュラムベースにおける具体的な方策やアセスメントモデルが確立されているわけではない。すなわち、教員養成段階においては、「教育実習の改善・充実」や「教職実践演習」の具体的な方策が中心的課題としながらも、授業実践の力量形成と省察、そしてそれに必要な能力ベースの到達度の設定が喫緊の課題となっている。

ところで、近年の欧米における体育教師教育カリキュラム研究は既に実証・検証段階に入っている。それは、教師の専門性基準 (professional standards) をベースにしながら、適宜アセスメントして改善し、教員養成課程の質的向上に寄与している。しかしながら、わが国の教員養成課程においては、教師として求められる力量 (専門性基準) やカリキュラムレベルでの検討、さらにはその成果を学部と大学院の一貫を意図した実践かつ検証するまでには至っていない。

これまで本申請者は、自己の科研において体育教師の「実践的指導力」の育成に寄与するアセスメント・モデルとして「ティーチング・ポートフォリオ (以下、TP と略記)」の有効性並びにその TP を電子化した「eポートフォリオ」の一端を開発した (若手研究 (B) 19700490, H19-20)。また、体育教師の力量形成を保障するアセスメント・モデル開発のための実証的研究として、その成果を蓄積してきた (若手研究 (B) 21700604, H21-23)。さらには、研究分担として教員養成段階で学生が身につけるべき「実践的指導力」を提案し、それを養成する体育教師教育プログラムを開発した (基盤研究 (B) 18300204, 研究代表者: 木原成一郎, 研究分担者, H18-20 と基盤研究 (B) 21300221 の分担)。

2. 研究の目的

以上の3つの成果を踏まえ、今回の研究では、次の研究の目的のもと研究を進める。

そこで本研究では、教員養成における学部・大学院一貫を目指した体育教員養成カリキュラムの開発とその実践を検証することを目的とする。そのための具体的な研究課題を以下に3点で示す。

第1に、国内外の先駆的な体育教員養成カリキュラムとそのアセスメント方法について調査研究することである (研究課題)。第2の研究課題は、ここ5年間の科研の成果で開発した「実践的指導力」の能力規準とアセスメント・モデルを視座に置きつつ、学部・大学院一貫の体育教員養成カリキュラムを開発する (研究課題)。第3の研究課題は、その開発した体育教員養成カリキュラムの一部を試行的に実践かつ検証をしながら、継続的にアセスメントをすることで改善点

を導出しながらカリキュラムを再構築することである (研究課題)。

3. 研究の方法

1 年次は、研究目的欄に記載された研究課題 に関して、国内外の大学で調査研究する。

1) 国外の調査研究

TISS 型の学力テストにおいて、シンガポールは高得点を取得している。また、体育においても NAPFA という体力テストを適応して、生徒たちの体育的学力や健康を保持増進している。しかも、小国であるシンガポールは、唯一の国立教育学院 (NIE) において、大学学位レベルで教員養成を実施している (嘉数・岩田, 2010)。したがって、教師の質保証のシステムとして充実している NIE を調査する必要がある。実は、シンガポールには、ここ数年調査を継続的に実施しており、人脈は作っている。なお、今回の調査では、大学院のカリキュラムを中心に調査する予定である。

2) 国内の調査研究

国内の大学における先駆的に教職大学院を運営している福井大学、東京学芸大学、玉川大学を中心に訪問調査し、資料収集を行う。とりわけ、カリキュラムとアセスメント方法、そして現在における課題なども関係者に対してインタビューを実施する。

以上、1) と 2) の調査方法としては、「半構造化面接法」(西篠, 2007) を用いて、インタビューを実施する。また調査の視点としては、大学院におけるカリキュラム改善の方法、学部との連携 (実習関連のマネジメント) とその改善内容などである。

2 年次は、研究目的欄に記載された研究課題 と に関して、調査研究する。

1) 国外の調査研究

先述した通り、米国では教師教育カリキュラムの実証と検証の段階にある。とりわけ、わが国の「4+α」教員養成の方向性に示唆を得られるであろうミシガン州立大学を調査対象とする。全米の教員養成ランキング1位に輝いたミシガン州立大学 (以下、MSU と略記) は、米国の中でも「5 年制教員養成」を運営しており、全米においてもトップレベルの教員を輩出していることで有名である (例えば、America's Best Graduate School, 2007; 松浦ら, 2011)。調査内容や方法については、前年度の内容や方法を踏襲する。

2) 体育教員養成カリキュラムの開発とその策定 (研究課題)

平成 18-20 年度と平成 21-23 年度の基盤研究 (B) と若手 (B) の知見をもとに体育教師の能力基準を基礎にして、知識や能力、そして態度 (価値観) の具体的なループリックを適応しながら、そのリフレクションのデータを TP に蓄積していく。

横断的なデータになるが、収集された膨大な資料を整理するために、大学院生等の協力を得て、開発に際しての必要な内容や重点項目を KJ 法（川喜田，1967）にて分類し把握する。

3 年次の最終年度では、引き続き研究課題を遂行するために、2 年間で得られた知見をもとに検証する。そして、その開発した力量規準とアセスメント・モデルを試行的に本学の学生に実践させ評価する。具体的な計画・方法は以下の通りである。

1) 開発したカリキュラム・モデルのアセスメント

2 年次の調査から知悉した知見をベースに、教員養成における学部教育実習と教職実践演習、そして大学院（教職高度化プログラム）の附属と公立実習のデータに対して検証する。具体的には、以下の方途で検証する。

まず、継続して作成させている TP の内容から、「広大版教職スタンダード」に準拠したリフレクションのエビデンスを抽出し、その記述内容から分析する。また、インタビューした内容は、音声認識ソフト等を用いて文字化した資料を用いるとともに、解釈の信頼性を高めるために教員養成に長く従事する大学教員や現職教員、さらに大学院生も含めて解釈のメンバーチェックを行う。

なお、体育関連学会でその成果を発表し、適宜本学や調査協力校にフィードバックしていく。

2) 学部・大学院一貫の体育教員養成カリキュラムの構築

教員養成における各段階におけるアセスメントの検証結果をもとに、学部と大学院の一貫した体育教員養成カリキュラムを再構築する。最後に、これらの結果を調査協力のあった各大学等に「結果報告書」を作成しフィードバックし、意見をいただきながら、新たな研究課題を導出する。

4 . 研究成果

研究成果は、大きく以下の 3 点に整理できる。

第 1 に、国内外の先駆的な体育教員養成カリキュラムとそのアセスメント方法について調査した結果、アメリカ合衆国やシンガポールにおける事例を調査することができた。その成果は、「5. 主な発表論文等」における[雑誌論文](3)(7)(10)(11)(13)及び[図書](1)として公表している。

第 2 に、「実践的指導力」の能力規準とアセスメント・モデルを視座に置きつつ、学部・大学院一貫の体育教員養成カリキュラムを提言することができた。その成果は、「5. 主な発表論文等」における[雑誌論文](2)(5)(6)(8)として公表している。

第 3 に、その開発した体育教員養成カリキュラムの一部を試行的に実践かつ検証をし

ながら、継続的にアセスメントをすることで改善点を導出したことである。

その成果は、「5. 主な発表論文等」における[雑誌論文](12)として公表している。

一方、今後の本研究の課題や展望としては、以下の 2 点が指摘できる。

(1) 研究課題 にある国内の先駆的な体育教員養成カリキュラムとアセスメントの事例調査である。現在、わが国の国立大学の教員養成分野は、ミッションの再定義の渦中であり、教職課程や教職大学院の在り方が問われる。そのため、国内の先駆的な体育教員養成カリキュラムとそのアセスメント方法についての実態については、今後の継続的な調査を実行することでその実態や課題が明らかになるであろう。

(2) 研究課題 にある試行的に開発した体育教員養成カリキュラムの一部を試行的に実践かつ検証をしながら、アセスメントをすることで改善点を一部導出できた。しかしながら、その知見をもとにカリキュラムを再構築するまでには至らなかった。この点については、今後の課題として継続的にカリキュラム構築とアセスメントを実施していきたい。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 13 件)

- 1) 棚橋健治・渡邊巧・大坂遊・岩田昌太郎・草原和博(2015)教師のリーダーシップと教科指導力の育成プログラム シンガポールにおける国立教育学院の GPL に着目して . 学校教育実践学研究, 第 21 巻, pp.133-141【査読無】
- 2) 岩田昌太郎・久保研二・生関文翔・渡辺駿・池浦このみ・川口諒・高島亜由美・宮武遼(2015)教員養成における e ポートフォリオ・システムの実態と課題に関する事例研究 日米の 2 つの大学を比較検討して . 学校教育実践学研究, 第 21 巻, pp.163-172【査読無】
- 3) 久保研二・木原成一郎・岩田昌太郎(2015)教員養成課程の体育の授業科目におけるポートフォリオ活用に関する一考察 - 学生と大学教員の振り返りに着目して - . 体育科教育学研究, 第 30 巻 2 ,pp.13-23【査読有】
- 4) 岩田昌太郎(2014)ドミニカ共和国の学校体育事情と教員養成. 体育科教育, 第 62 巻 9 号, pp.30-33【査読無】
- 5) 岩田昌太郎(2014)中高の保健体育教師の意識調査から見てきた体育授業への問題・関心の現実. 体育科教育, 第 62 巻 7 号, pp.38-41【査読無】
- 6) 吉田成章・権藤敦子・草原和博・間瀬茂夫・柳瀬陽介・岩田昌太郎・三村真弓・丸山恭司・曾余田浩史・森下真実・中坪史典・森田愛子(2014)教職能力を高める事例の

- あり方・広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書, 第 12 巻, pp.265-280【査読無】
- 7) 草原和博・松宮奈賀子・木下博義・兼重昇・岩田昌太郎・吉田成章・森田愛子(2014)カリキュラム R&D センター構想の可能性と課題(2) 広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書, 第 12 巻, pp.251-264【査読無】
 - 8) 深澤清治・吉田裕久・田中宏幸・小原友行・草原博和・小山正孝・入川義克・磯崎哲夫・木下博義・櫻葉みつ子・岩田昌太郎・鈴木朋子・三村真弓・三根和浪(2014)教員養成モデル・コア・カリキュラム作成のための教科構成原理の探求(第3年次)【査読無】
 - 9) 岩田昌太郎・齋藤一彦・前田一篤・山木彩加・手島祥平・中山泉(2013)修士課程段階におけるアクションリサーチ型実習の効果に関する事例的研究 - 保健体育科実習生の授業についての知識と教授技術の変容に着目して - . 学校教育実践学研究, 第 20 巻, pp.141-151【査読無】
 - 10) Minoru Kobayashi, Taichi Gushiken, Yurika Ganaha, Yosiaki Sasazawa, Shotaro Iwata, Akiko Takemura, Tsutomu Fujita, Yonathan Asikin and Minoru Takakura(2013)Reliability and Validity of the Multidimensional Scale of Life Skills in Late Childhood. Education Science. Vol. 3, pp.121-135【査読有】
 - 11) 草原和博・松宮奈賀子・木下博義・後藤賢次郎・兼重昇・岩田昌太郎・吉田成章・森田愛子(2013)カリキュラム R&D センター構想の可能性と課題(1). 広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書, 第 11 巻, pp.249-264【査読無】
 - 12) 深澤清治・吉田裕久・草原博和・小山正孝・磯崎哲夫・岩田昌太郎・鈴木朋子・三村真弓・三根和浪・長松正康(2013)教員養成モデル・コア・カリキュラム作成のための教科構成原理の探求(第2年次). 広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書, 第 11 巻, pp.69-82【査読無】
 - 13) 嘉数健悟・岩田昌太郎(2013)教員養成段階における教師志望学生の体育授業観の変容に関する研究 - 教育実習の前後に着目して - . 体育科教育学研究, 第 29 巻 1 号 pp.35-48【査読有】

〔学会発表〕(計 10 件)

- 1) 岩田昌太郎・前田一篤(2012)教員養成段階における早期の学校体験の効果に関する事例研究 - H 大学の「特色ある教育実習プログラム」に着目して - . 日本体育学会第 63 回大会(東海大学)(ポスター発表) 2012 年 08 月 24 日
- 2) 岩田昌太郎・嘉数健悟・手島祥平・山木彩加(2012)体育科教育学における研究動向とその特徴 - 日本教科教育学会誌の「内容」と「方法」の分析から - . 日本教科教育学会(ポスター発表) 2012 年 11 月 04 日. 東京学芸大学

- 3) Shotaro IWATA, Kazuma MAEDA. and Kengo KAKAZU(2012)The Research a trend on Physical Education Pre-serviced Education Curriculum Assessment in Japan : a focus on the Hiroshima University Model. The World Association of Lesson Studies 2012 in Singapore (poster). 2012 年 11 月 29 日
- 4) 岩田昌太郎・嘉数健悟・齋藤一彦・久保研二・前田一篤・山木彩加・生関文翔(2013)若手の保健体育科教師の悩み事に関する事例研究 - 学校環境の相違に着目して - . 日本体育学会第 64 回大会(立命館大学) 2013 年 8 月 28 日~30 日
- 5) 前田一篤・山木彩加・生関文翔・岩田昌太郎(2013)若手体育教員の苦悩に関する実証的研究 - 「教師レジリエンス」に着目して - . 日本体育学会第 64 回大会(立命館大学) 2013 年 8 月 28 日~30 日
- 6) 岩田昌太郎・嘉数健悟(2013)中学校保健体育教師における現職研修の効果に関する研究 - 研修に求める機能に着目して - . 日本教科教育学会第 39 回大会. 2013 年 11 月 23 日~24 日. 岡山大学
- 7) 嘉数健悟・岩田昌太郎(2013)中学校保健体育教師における悩み事に関する調査研究 - O 県の保健体育教師を事例として - . スポーツ教育学会第 33 回大会. 2013 年 10 月 19 日~20 日日本大学
- 8) 岩田昌太郎・嘉数健悟・前田一篤・生関文翔(2014)初任の保健体育科教師が直面する課題や悩み事の変容に関する事例研究 . 日本体育学会第 65 回大会(岩手大学) 2014 年 8 月 25 日~28 日
- 9) 川口諒・岩田昌太郎・渡辺駿(2014)教育実習生の「省察」の変容に関する事例研究 . 日本教科教育学会第 40 回全国大会. 2014 年 10 月 11 日~12 日
- 10) Shotaro IWATA, Ayaka ISEKI, Kazuma MAEDA and Shun WATANABE (2014) The Development and the Practice of Physical Education Pre-serviced Education Curriculum on Consistent Undergraduate and Graduate in Japan : focus on the Hiroshima University Model. The World Association of Lesson Studies 2014 PROCEEDINGS Program and Abstracts pp.273-274

〔図書〕(計 2 件)

- 1) 岡出美則・友添秀則・松田恵示・近藤智靖(2014)新版体育科教育学の現在. 創文企画
第 3 章 2-1「教員養成のスタンダードづくり」(pp.194-209)を執筆担当
- 2) 木原成一郎・徳永隆治・村井潤 編著(2015)体育授業を学び続ける: 教師の成長物語. 創文企画
第 1 章コラム, 第 2 章第 5 節 (p.16, pp.24-25, p.31, pp.41-42, pp.70-74)を執筆担当

当

〔その他〕

ホームページ等

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/ishotaro/>

6．研究組織

(1)研究代表者

岩田昌太郎 (IWATA SHOTARO)

広島大学・大学院教育学研究科・准教授

研究者番号：50433090

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：